

天竜川シンポジウム 開催要綱（案）

テーマ：住民の川離れを解消し川に行くきっかけづくりの検証 ～川の楽しみ再発見～

1997年河川法が改正された。その前提として1995年『今後の河川環境はいかにあるべきか』を検討する河川審議会が当会と関わりの深い東京大学名誉教授の高橋裕先生を委員長に開催された。その答申では、「生物が多様な生育環境」、「健全な水環境の確保」、「河川と地域との再構築」が基本方針とされた。ここでの「河川環境のあり方」が1997年の河川法改正の目玉となった。河川法改正一条に河川法の目的として『河川環境の整備と保全』が加えられ、河川整備計画書作成においては、学識経験者、首長の意見を加えると同時に、漸く住民の意見を聞く仕組みが確立された。つまり、治水と水資源の開発に特化した従来の河川事業に、河川環境、住民参加の道が開かれた。

昨年の天竜川シンポジウムでは「地域住民の川離れ」が強く指摘され、『川に行くきっかけづくり』が必要であると結論された。（平成29年度総括書参照。）本年はさらに議論を深め、「治水」、「水利用」、「河川環境」を議論しつつ、それぞれのタイトルで「地域と河川の関わり方」について議論する。地域住民と河川行政関係者が一堂に会し、気さくに話し合いそれぞれの立場で活動の方向性や協働を考える機会としたいと考える。本シンポジウムにより参加者が天竜川への関心を高め、天竜川を愛する心を育むとともに、後世に誇れる天竜川を共に創造していくことを目的とする。

【日時・会場】（予定、敬称略）

□日時：平成30年10月14日（日） 10:30～17:00

□場所：駒ヶ根市駅前ビル市民交流活性化センター「アルパ」3F 大会議室他

□対象：一般市民・住民で自然環境や景観に関心の高い方

行政、設計・施工事業者の川づくり担当者、河川環境研究者

【プログラム概要】 一部予定、敬称略

講堂 参加人数80名 参加費無料

10:00 《開場》 受付開始

10:30～《開会の辞》 駒ヶ根市長 杉本 幸治

10:35～《主催者挨拶・趣旨説明》 NPO法人天竜川ゆめ会議 副代表理事 橋爪 和也

10:40～《河川管理者の報告》「ミズベ水辺リングの推進」(ほぼ確定)

(元国土交通省 河川環境課 課長補佐)

—————浜松河川国道工事事務所 所長 田中 里佳

11:00～《基調講演》 天竜川の達人—(交渉中)—

天竜川鷺流峡復活プロジェクト 曾根原 宗夫

12:00～《昼食》 各自

13:00～《説明》小グループ討議の方法についての説明

13:10～《分科会》小グループ(テーマ別)に分かれての意見交換会

14:40～《休憩》

14:50～《討論》「全体会議」※参加者全員で語る天竜川の問題点とあるべき姿

16:15～《表彰》私の大好きな水辺の風景写真コンテスト

飯田市長賞、伊那市長賞、駒ヶ根市長賞、飯島町長賞、中川村長賞、

宮田村長賞、長野日報賞 他

16:35 ～ 《総評・総括》天竜川上流河川事務所 所長 椎葉 秀作

16:50 ～ 《謝辞・閉会の辞》 NPO 法人天竜川ゆめ会議 代表理事 福澤 浩

17:00 ～ 閉 会

【分科会でのルール】

- ・天竜川みらい計画を尊重し、意見交換を行うこと。
- ・それぞれの意志を尊重し、発言に対して否定することはしない。
- ・全員が平等の立場にあり、自由な発言を行う。
- ・私利私欲のための発言は、行わない。

【受付時グループ分け等】

☆受付について アルパホワイトエに設置

受付で記名をしてもらい、レジメと名札を配布する。(裏にはグループ名とグループ分けがあり、小ホール入口で登録する旨を記載してあり、配布時にその旨を告げる。)

受付は 一般・行政・ゆめ会議・スタッフ(コーディネーター・筆記者・その他 ゆめ会議スタッフ(当日小グループ討論に参加しないもの))に分けて行う。受付は、座談会が始ったら 会場の中で行う。その旨が参加者に分るように表示する。

受付簿は 一般・行政・ゆめ会議を用意する。

ゆめ会議で印刷。一般は氏名・住所・グループ番号が分ること ゆめ会議・行政は氏名・所属・グループ番号が分ること。

☆ 小グループ分けについて 大会議室入口に設置する。

小グループ番号(当日のレジメ裏に記載)を聞き名札に番号のシールを貼る。

最終的に各グループの人数を把握しておくこと。

グループ番号の分るシールを準備する(同じもの) ゆめ会議で作成の予定

【分科会の運営】

☆グループタイトルについて

短い時間で多様な話題に参加者が興味を持って議論が出来るよう小グループは8(最大 12)とする。

番号	小グループタイトル	内 容
1 2	環境	水質(水清らかな天竜川) 水量(豊かな水をたたえる天竜川) 動植物(多様な動植物の共存する天竜川) 景観(豊かな自然と、伊那谷の特性) その他、問題になりつつある事柄(漂着ゴミ、汚染物質埋立)
3 4	利用	川の文化の継承と創造(歴史、文化を育み、地域の個性を生かす) 川の利用(水に触れ、安らぎ、心いやされる天竜川) 川と学習(遊び、学び、川に誇りを持つ心を育てる天竜川) 川の恵み(川の恵みを活用できる天竜川) その他、問題になりつつある事柄(夏の水不足、堤防立入禁止)
5 6	治水	川の怖さを知り・知らせる 流域全体で洪水に備える、環境・景観に配慮する、 安全に土砂の流れる、知恵と工夫を生かし水害を防ぐ その他、問題になりつつある事柄(ゲリラ豪雨、土石流)

それぞれの分科会では、小グループタイトルに加えて「住民の意識」について「川に行くきっかけづくり」をどのように進めるかを議論する。

■ゆめと愛と責任をもった人の暮らす天竜川

- ・天竜川への思いや、ゆめをいつも持ち続ける
- ・天竜川を愛する心を育む
- ・責任ある行動で天竜川を守る
- ・川の恵みに感謝し、後世に誇れる天竜川にする

☆コーディネーターは、ゆめ会議サイドで行い、サブコーディネーターは 行政の方で決める。

コーディネーターとサブコーディネーターは、事前に連絡を取合い、事前の準備をする。

国の取りまとめ (未定)

県の取りまとめ (未定)

☆参加人数によるグループ編成について

参加者の希望の小グループタイトルにより、先着順に奇数、偶数に振り分けてグループ編成を行う。

また、コーディネーターと行政からの参加者を除き 10名の参加者を超える場合は、3つめのグループを編成する。その場合には3つのグループの参加者が平均化するよう調整する。

☆小グループでの議論の方法について

1. このグループのタイトルで流域住民と行政の連携を考えていこうとする場であることを告げる。また、近年天竜川流域で気になることや、改善したい事柄を議論する場であることを宣言する。(コーディネーター)
2. 自己紹介
(自己紹介の内容としては、お名前 このグループに参加した動機 程度で和やかに話しが進む程度にしてもらう。) 経歴的な長い挨拶はご遠慮願うこと。(概ね1分以内で)
3. 各グループタイトルの天竜川みらい計画でのそれぞれの内容について紹介する。
(コーディネーター)
■例えば 天竜川の魚を考える
みらい方針から カジカやアメノウオが棲める川
魚の往来が容易な川 在来の動植物が大切に守られている川
瀬や淵などの変化がある川 自然観察が楽しめる川
動植物が生息・生育しやすい川 etc
4. 住民サイドのアプローチや川の現状について軽く紹介する。
(コーディネーター 1分以内程度)
■例えば 漁協による稚魚の放流 川漁の仕方 漁協での小学生以下の入漁料 無料
アメノウオが天竜川に生息していることや清掃活動等
5. 行政サイドのアプローチや川の現状について紹介する。
(コーディネーター 1分以内程度 国と県)
■例えば 基本方針や整備計画の進捗状況や工事での配慮や魚道の整備状況 等
6. 近頃問題になりつつある事柄について気が付くことを発言してもらう。
(コーディネーター進行で 発言者1分以内程度 参加者)
■例えば 川のゴミが目立つ。自然再生事業で下平は見通しが良くなった。
丸塚公園の護岸に水がなくて残念。本当に宮田に破棄物を埋め立てるのか?
7. これらを受けて意見交換会に入る。
意見交換会は、自由な感じでお願いし、上述での現状の認識に立ち、このタイトルでの今後の流域住民と行政の連携について意見交換する。意見交換時に活動時に困った事を重点的に話してもらうようにする。各自の困ったことを糸口に助け合える点を拾い出しながら連携の話ができればと思われる。
発言者の内容が著しく長いような場合や、座談会ルールを逸脱するようなことがコーディネーターの方で調整をお願いします。どうしてもルールを守れない人は他の皆さんの為に退場をお願いしてください。
小グループとして流域住民と行政の連携についての結論が出なくても結構です。今後の市民団体同士や行政との連携の方向性のできる議論ができれば、お願いしたい。
8. 意見については、趣旨に付箋紙に記入して全紙に貼ってもらい、お話をしてもらう。
9. それらの意見を市民団体間の連携へのアプローチや行政と市民団体 行政間の連携の形での新提案になるようなまとめができれば、その方向に30分前から議論を誘導してください。(全体会議の進行上 付箋紙を貼りなおしてまとめてくれて主題をマジック書きをしてもらえればさらによい。)
10. 最後に、コーディネーターは、パネルディスカッションでの発表内容を皆さんの前で発言し

て確認してもらう。(10分程度)

【パネルディスカッションの進行】

1. 各分科会のコーディネーターから分科会の議論の内容を発表してもらう。(各5分程度)
2. 分科会の発表の中で特に目立った話題について掘り下げる。
3. 場合によって、会場からも意見を聞く。
4. 最終的に、「治水」「利水」「環境」「住民の意識」「問題点と解決方法」についてまとめる。

(85分)

【主催・共催・後援】

□主催：特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議

□共催：(予定)

駒ヶ根市／駒ヶ根市教育委員会／長野県／長野県治水砂防協会
／(一社)長野県建設業協会／(一社)長野県測量設計業協会
／(一社)長野県南部防災対策協議会／(一社)南信防災情報協議会
／(一社)建設コンサルタント協会関東支部長野地域委員会

□後援：(予定)

国土交通省中部地方整備局／国土交通省北陸地方整備局／飯田市／伊那市
／辰野町／箕輪町／飯島町／南箕輪村／中川村／宮田村／大鹿村／長野県河川協会
／天竜川漁業協同組合／長野県砂防ボランティア協会／日本地すべり学会中部支部
／信濃毎日新聞社／中日新聞社／長野日報社／市民新聞グループ／
／エルシーブイ(株)／伊那ケーブルテレビジョン(株)／(株)エコシティー・駒ヶ岳

【募集・広報】

新聞等のメディアへの記者発表や天竜川流域の仲間達のフォーラムに参加された団体や川愛護団体、市民団体の皆さんや市町村行政の皆さん等に呼びかけていきます。

市町村(天上) 諏訪・伊那・飯田合庁記者クラブ(長野県) 河川愛護団体(天上・県)

フォーラム参加団体・駒ヶ根市・伊那市記者クラブ・駒ヶ根ケーブル・諏訪ケーブル・伊那ケーブル・飯田ケーブル (ゆめ会議)

【問合せ先】

特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議 事務局 Tel 0265-83-7744 Fax 0265-83-7745

長野県駒ヶ根市赤穂 14616-67 緑地計画内 福澤・倉田

※当シンポジウム参加者には、測量系CPD・建設コンサルタント系CPDを付与。